

もたちの学力をいかに規定するかを検討するため、種々の僻地性の程度をもつ学校から、2学級、3学級、6学級の学級規模の学校32校を抽出し、国語・社会・算数・理科の標準学力検査を、小学6年生に実施した。その結果、僻地の子どもの学力は、学級規模よりも、その僻地性の程度によつて規定される面が大きいことがみとめられた。しかし、社会科のみは、学級規模によつて、学力を規定される面が多いようである。このような傾向は、一般的なものであり、各学校の特色によつて、その傾向からずれるものもあり、そこに、学校経営および学習指導の工夫による解決の可能性がみとめられた。

僻地児童の経験領域に関する研究

——都市との比較——

増田末雄（名古屋大）

目的 いわゆる僻地とよばれる地域に住む児童生徒はどのような生活経験を積んでいるか、あるいは生活空間はどのような拮据りになつていくのかについて、都会に住む児童との比較によつて明らかにしようとする。

方法 無意綴りを刺激語として与え、連想法（時間制限法1分間）により資料を収集整理した。対象は小学校5年生、中学校1年生各150名ずつ。

結果 1. 反応数の間に、僻地の児童と都会の児童との差異が見られた。1分間反応であるために、第1、第2、第3……の反応数を直接比較した。2. 範疇を12に分類し、それらの反応率間の差異を考察した。抽象語において、僻地と都会との間に差異が見られた。これらは主として第1反応語を中心として考察が進められた。

僻地生徒にみられる威光暗示効果について

三輪弘道（名古屋大）

威光暗示効果は、山間僻地の生徒と都市の生徒の間でどのようなちがひがあるだろうか。本研究は、調査対象を中学1年にとり、権威者として、東京都・静岡市・川根地方（大井川の上流地方をさす）の3地の中学3年生を考えた。調査は、8つの意見からなる意見調査で、賛成・？・不賛成の三件法によつて行なわれ、3日後再び同一調査が行なわれた。その際、各意見には、権威者の意見が一对比較の形で示された。調査結果によると、都市の生徒より僻地の生徒の方が大きい変容を示し、殊に、それは女子において著しかつた。権威者間については、一般に、都市・僻地ともに、東京都の中学3年の暗示効果が一番大きいといえるが、静岡市・川根地方の威光暗示効果については、都市・僻地ともに一貫した傾向を見出せなかつた。

映画による自己の客観視の効果（その1）

続 有恒（名古屋大）

対象：山村（静岡県O小学校5年生2組）—テレビ視聴不能の地区、都市（名古屋市K小学校5年生2組）—団地内の近代建築の学校。手続き：O、K両小学校の1組の児童会の模様を中心とする8ミリの記録映画を、当の学級を含む各2学級の児童にみせ、感想文および質問紙調査を求めた。

結果：映画に登場した児童の場合、山村児が自己の姿、自己の周囲に関心を集中させ、映画に登場することを中心に反省、希望を抱いているのに対し、都市児では、他地域（山村）の児童の生活に関心を集中させ、しかも自己の欠点についての反省を持ちえている。

映画に登場しなかつた児童の場合、山村児が主として自己が撮影される時を予想して自己を戒めているのに対し、都市児では、他地域の児童の生活に比べて自己を戒めている。

このようなところに心的僻地性を認めうる。

TAT反応を規定する文化価値についての研究（2）

鈴木正義（函館児童相談所）

被験者は中流階層児童112名（男60名、女52名）、下流階層児童116名（男62名、女54名）である。9枚のTAT図版が採用され、筆記形式で施行された。28の項目について実験的検証の結果は、下記の項目において両群のTAT反応者の数のうゑに、5%以下の危険率で有意な差が認められた。結論として下記の項目1～5における反応者の数は中流階層児童の方が多く、6～7においては下流階層児童の方が多い。(1)主人公が無力を感じ助力、同情を求める。(2)主人公が親から援助され、激励され、物を与えられる。(3)主人公が芸術・科学・思想などの創造的活動や宗教的活動を職業とする。(4)主人公が社会的名声・自己実現という目標を達成するために上級学校へ進学する。(5)主人公が自己批判・後悔をする。(6)主人公が経済的に貧困である。(7)主人公が生活の安定のため職を求めたり失業をおそれたり働いたりする。

ロールシャッハ・テストにおける反応内容を規定する要因

——カルチュラル・ファクターについて——

江見佳俊・○鈴木康平（名古屋大）

海を経験したことのない山間僻地の児童が3日間の臨海学校生活をおくつた機会をとらえ、こうした一時的な